

今月のコラム

ガーデンセラピーを推進しよう

株式会社タカショー 高岡 伸夫

本年5月に一般社団法人日本ガーデンセラピー協会の立ち上げとともに「ガーデンセラピー 心身を癒やす究極の自然療法」という本を出版いたしました。



私が一番懸念している高齢化の問題がきっかけとなり、このような活動を始めました。皆さんもご存知のように、平均寿命と健康寿命の差が10年近くあり、この間には多くの医療費や介護費を個人が負担することになります。国家においても、現在約40兆円強の介護医療費が2020年には約60兆を超えるといわれています。

そのため医療費や介護費の削減、病院での診療回数の削減などが個人においても、国家においても大きな負担減となります。また、今のような生活習慣の中では認知症やうつ病などにかかる人がさらに増え、そのような病気が原因となる行方不明者は年間1万人を超えるとも言われています。そんな中、欧米、特にヨーロッパでは国の政策によって認知症が減り、予防医学を進歩させました。高齢化社会が抱えている問題を解決する役目を果たす可能性があるのが、私たちのようなガーデンや緑にかかわる業界です。

ドイツでは、森で療法トレーナーと共に3週間歩く「森林療法」の権利を労働者が取得しており、その医療費用は保険に含まれています。特に精神的な病気やストレスなどには有効だそうです。多くの病気の大きな原因は、ストレスが過剰にかかりそれを発散できないことです。ストレスマネジメントをしっかり保つことが必要となります。そのひとつの手段として、「ガーデンセラピー」が挙げられます。庭はストレスを抑え、抗酸化力を高めます。そのことにより多くの成人病やストレス性の癌などへの効果が実証されてきています。ガーデンセラピーの例として、農業や家庭菜園での作業、庭を通じてコミュニケーションをとることや地域へ参加し社会貢献をすること、運動、また健康的な野菜を食すことの効果は抜群です。

これらを「芳香療法」、「食事療法」、「芸術療法」、「園芸療法」、そして「森林療法」へと分類し、また家と庭の両方でそのような活動を行う「住まい方療法」の6つの療法を総称します。これら6つの療法を用いて、日本ガーデンセラピー協会は、人の健康に対する庭の有効性を改めて確認し、庭と家の様々な関わりの中で心身を整え、自己治癒力を高めながら健康な暮らしと健康寿命の増進を実現しガーデンセラピーを推進していくという考えで進めようとしています。

園芸商品の販売や農業的な考えだけでなく、私たちはこの産業を通じて社会においてどのような役目をはたしているのか、その誇りと主張を正しくしっかり持たないと、この業界は年々縮小していく可能性もあると考えます。少なくともイギリスをはじめとするヨーロッパ各国の計り知れない大きな同業界は社会的使命を認識しています。私たちはそのような国々と共に取り組みを進めていくことが日本の後世に残していく大きな責務だと考えております。



2016年10月12日 研修セミナー報告

メネデール (株) 羽田一生

今回は全国的にも有名な京都・洛西の(株)サンフラワー・サービス まつおえんげいの松尾社長に講演して頂きました。テーマを『信頼とコミュニケーションで、また行きたいと思っていただける園芸店作りを』と設定させて頂き、松尾社長自身もこれまであまり公の場で話されたことのない『接客』という観点からの講演となり、とても貴重なものとなりました。



講師:まつおえんげい 松尾社長

業界No.1の接客を目指し、その為にお客様目線での細やかな気遣いや工夫を経営者からスタッフまでの全員が徹底して共有することで実現してこられた店作りとお客様との信頼関係。特にお客様との会話・コミュニケーションに重きを置いている部分については、予想をはるかに超える内容・徹底ぶりがあり、本当の『接客』とはそういうことか!と考えさせられる内容でありました。

新たな気付きや感動に多く触れることができ、終了後には聴講者の満足感が会場に充満するような素晴らしい講演でした。聴講者数はGARDEX来場参加者含め61名。 研修委員会



東京オリンピック・パラリンピック

花と緑のおもてなしガーデン報告

東京の夏に適する花の研究を造園・種苗・園芸関連企業・団体や都民などと協働でサマーガーデンなどを作りながら行う「おもてなしガーデン2016年夏」の審査が行われました。

ガーデンを考える会のおもてなしガーデンは、オリーブの評判がよく、植栽もきれいな状態を保っており、パイナップルも収穫可能なほど大きい実がつけました(食べられるかどうかは不明)。

見学者を対象に行われた人気投票では、獲得票16で、全23団体中10位でした。

五輪プロジェクト委員会



～主催の臨海副都心「花と緑」のイベント実行委員会報告書より～

今年の梅雨は期間を通じて降雨が少なく、日照時間が平均値より高かったことから、定植後の活着が比較的厳しかったと認識しています。平年より一週間遅れた梅雨明け後も、全般に晴れの日が続き降水量が少なかったことから、乾燥に弱い植物にとっては厳しい条件でした。また、8月中旬からの台風や前線の影響により、強い雨で花などが傷みやすい品目では花数が少なくなり、草丈の高い品目では倒伏が生じるなど植物への影響が確認されました。

今年より、最優秀賞には農林水産省生産局長賞、優秀賞には東京都産業労働局長賞と、行政の協力をいただきつつ、本審査会の地位向上に努めてきました。来年以降も引き続き、本審査会を実施する予定です。



園芸業界ニュース

日本フラワー＆ガーデンショウ2017 4月1～3日

大好評を博した2016年の実績を受け、日本フラワー＆ガーデンショウが2017年4月1～3日パシフィコ横浜において会場面積を1.5倍に拡大して開催される。

テーマフラワーは「バラ」、ショウテーマ「花を楽しみつくす～家族で体験！花と緑の3日間～」にふさわしく家族そろって楽しめる花と緑のイベントとなる。

小間・ミニブース・ガーデンマーケットの出展申込み、ガーデニングコンテスト作品応募の締め切りは共に12月22日まで。

(公社)日本家庭園芸普及協会 <http://www.kateiengai.or.jp/show/>



園芸業界ニュース

第8回 世界盆栽大会 in さいたま
盆栽、～次の100年へ～
「Bonsai, ～Towards the Next 100 Years～」

国内外から1200名を超える愛好家を集めた1989年の世界盆栽大会から28年ぶりに再び日本で、2017年4月27～30日世界盆栽大会が開催される。さいたまスーパーアリーナ、大宮ソニックシティパレスホテル大宮、サブ会場は氷川神社、さいたま市大宮盆栽美術館、大宮盆栽村。

<http://world-bonsai-saitama.jp/>



新刊紹介

【園芸専門店のためのSKILL-UP 春・夏編 寄せ植えの達人／井上盛博の
実践手法と実例～寄せ植えが、売り上げを左右する。】

メール会員6000人以上、福岡県の大人気園芸専門店「オニヅカバイオシステム筑前直売店」のカリスマ店長・井上盛博店長による寄せ植えノウハウ本！

一般の園芸愛好家からはもちろん、全国の園芸業界関係者からも熱い注目を集める「今、最も旬な男」井上盛博店長に密着し、「寄せ植え」をキーワードにした園芸店の「寄せ植えづくり・売り場づくり・ファンづくり」を徹底解説している。

「寄せ植えにはどのような売り場効果があるのか？」「いつ・だれが・どこで作るのか？」といった基本的な考え方から、実際の作例と売り場での演出方法を季節ごとに紹介。さらには集客の考え方やイベントの仕掛けなど“オニヅカイズム”の秘密をあますところなく披露する『園芸専門店のための教科書』が誕生！



監修：井上盛博 判型：A4判オールカラー128ページ 発行：(株)グリーン情報
定価：2800円＋税 おもとめはAmazon等で。



カエデ
kaede



東日本大震災支援活動に参加して

(株)牧野は栃木県鹿沼市で園芸用土・水稻培土を製造販売している会社です。

日本は四季があり花々も多種多様で、花を愛でる文化があると言えます。その花を育てる土台となる土作りをしているのは、みんなの笑顔の支えに少しはなっているのではないかと思います。思いながら日々の仕事をしています。

そのことを強く実感したのは、いまだ爪痕が濃く残る2011年3月11日の東日本大震災です。多くの個人や企業が何かできないかとそれぞれに活動していました。自分も何かできないものかと思いました。しかし園芸なんて役に立たない。花よりも団子と言いますが、まさに花よりもその日食べる物が求められていました。

それでも日が経ち、ネットなどで情報を収集していると、欲しい物の中に『花』を見かけるようになりました。ただ個人で届けるのはなかなか困難でした。そんな時にこの会での支援話が出てきたので、一も二もなく参加させてもらいました。

初めて訪れた被災地は釜石市でした。すでに三か月ほど経つので瓦礫などは一か所に集められていて道路は片付いていましたが、瓦礫の山(まさに山!)には唖然としました。壁のなくなった建物、流された大木、ひっくり返った車。そこには日常はありませんでした。二年目からは気仙沼に行きました。釜石でも気仙沼でも出迎えてくれたのは笑顔の花でした。励ます立場のはずが、逆に、頑張ってくださいありがとうございますと言われて目頭が熱くなりました。

そんな支援も6年目を迎え一つの区切りとなりました。まだまだ復興は途上でしかありません。どれだけの支援ができたのかもわかりませんが、現場を直接見て、被災者の話を聞き、子供たちと関わったことは大きな経験です。個人ではできなかったことが会を通してできました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



株式会社 牧野
牧野 和幸



配送も自分たちで



支援には植物だけでなく資材も欠かせない



津波後は土も喜ばれました